



いま、教学に何が求められているか

満井秀城

教学は、言うまでもなく、私たちの進むべき道を指し示してくれる羅針盤である。これを見失うと、たちまちのうちに方向性を失い、いわゆるダッチロール状態となるであろう。ところが、この重要な教学が、時に機能不全と指摘されることもある。

五木寛之氏が全国地方紙に連載中の『親鸞』は、まことに読み応えのある小説だ。聖人の人物像としては、かなり自由な描き方という印象だが、真摯な姿で、ありがたいと思う。そして、当時の時代背景や仏教的事象などについて、細かいところまで調べ上げ、さすがに、かつて龍谷大学で故千葉乗隆先生の講義を受けて来られた方だと感心させられた。山崎豊子氏の小説にも驚嘆したことがあるが、かくも作家という方は、恐るべき勉強家であるものだ。この五木氏の影響力たるや、生半可な学者や布教使が東になっても足元にも及ばないもので、こういう方が、親鸞聖人や蓮如上人のよき理解者であることは大事にせねばならない。

その五木氏が、『親鸞』の連載に寄せる思いを、同じ地方紙上に「親鸞を読み解く」と題して、上下二回にわたって述べていた。担当記者名から、あるいは全国地方紙ではなく、筆者の居住する広島の中世新聞（2009. 1. 9付）だけの記事であったかもしれないが、そこで見た次の一文は、筆者にとって衝撃的であった。

「学理学説を徹底すると仏教は衰え、民衆の土俗的なエネルギーを吸収できた教えが生き残る。」

ここではもちろん、慈円や明恵と対比して、親鸞聖人への好意的な評価としてであったが、むしろそれだけに、今日の私たちの教学に対しての強烈な課題提示でもある。この指摘を、私たちは真剣に考えねばならないだろう。

親鸞聖人は、言うまでもなく、学理学説をおろそかにされた方ではない。むしろ学哲を究められたからこそ『教行信証』のような教義体系が結実したのであり、また民衆の土俗信仰に対しても、無批判に丸ごと肯定されてはいない。「現世をいのる行者をば、これも雑修となつてぞ、千中無一ときらはるる」（『註釈版聖典』五九〇頁）と述べられたように、即物的な現世利益には否定的なのである。

しかし、同時にまた、次の点も確かである。すなわち、既成概念にとらわれない自由な発想の持ち主であられたことだ。ただこれも、単純に自由奔放というより、本願を基軸にする姿勢に徹せられた結果と言える。そういう本質を見抜く眼力は、確かに細かい学理学説とは異なる。そしてまた、当時の出家主義とは異なり、常に門徒民衆の中にあり、人々とともにあった。自己の教義体系を、民衆とじかに接する中から見据え、また検証されたと言えるだろう。

それでもなお「学理学説を徹底すると仏教は衰える」とは、すぐにはそう思えない。

浄土真宗は日本全国に弘まれているが、全国均一ではなく、いわゆるご法義地とされる著名な地域がいくつかある。江戸時代の藩主の意向による部分もあるだろうが、それだけではない。北陸や滋賀、大阪といった地方は蓮如上人のご教化のたまものと考えられる。一方、広島や大分といった地域は、蓮如上人が直接ご教化された所ではない。もちろん、広島であれば存覚上人や明光上人、大分では蓮如上人のご教化を受けた天然、そういう方々の存在も少なくないと思うが、この二つの地方に共通する点は、学僧が多く輩出したことである。殊に筆者の住む広島は、かつて芸轍と言われ、沢山の学僧が教学研鑽に精進した。自信教人信を体現し、自らの真剣な学問研鑽によって教えがひろまったのである。

ただ、同時に次のことは言いうる。たとえば安芸の深諦院慧雲は「神棚降ろし」と異名されたように、具体的な生活や風習に密着した教化であった。まさしく日常生活の中に念仏が根ざしていたのである。島根の石州学派も「真宗律」と称されるほどすぐれて実践的であった。つまりは教えが日常生活の中にあり、実践する念仏者であったのである。

ご門主さまは、昨年発布くださった「教章」の副題に「私の歩む道」とお示し下さった。「私の」は、宗教は他人のためのものではなく自分のためのものだという主体的営みであり、「歩む道」とは、ひろがりを持つ実践者となってほしいとの願いがこめられていると思う。

私たちの宗門は「自他ともに心豊かに生きる」社会であるともお示し下さった。今日、勝ち組・負け組、格差社会ともいわれるように、他人を蹴落として自分さえ良ければよいという社会風潮である。「自障障他せしほどに」（『註釈版聖典』五九三頁）とあるが、他人を蹴落とし、いじめや差別で他人を傷つけることは、決してそれで自分が勝ったのでも優位に立ったのでもなく、他人を傷つけることによって、自分の値うちを下げ、自分自身を傷つけているということなのである。自障障他の生き方ではなく、大乘仏教の基本精神としての自利利他の実践者となることが求められている。

（本願寺教学伝道研究所所長）